

本日、東京国立近代美術館で「麻生三郎展」が始まりました。

(http://www.momat.go.jp/Honkan/aso_saburo/)



▲美術館外の看板

なぜこのブログで紹介するのかって？ この展覧会は来年1月から京都国立近代美術館、4月末から愛知県美術館でも開催される予定なんです。展覧会カタログの小論3本のうち1つを当館の館長が執筆していて、私は年譜のページを担当しました。10月末には4泊5日で福岡県から広島・京都・三重・愛知と、出品作品をお借りして回りました。



▲ガラガラなのは、開会式前の記者内覧時間だからです。

開会式の館長あいさつでは「表面的にキレイなものカワイイものがもてはやされがちな今日だからこそ、麻生三郎の重厚な作品世界を紹介したい」との言葉が。

戦時下の1943年に鬘光（あいみつ）や松本竣介たちと「新人画会」を結成し、戦後も各時代状況の中で人間存在の核心を求め続けた麻生の作品は、重いけれども観る者を引き込みます。



▲麻生が「立体デッサン」と呼んだ彫刻も2点出品されています。

会場を回りながら、愛知県美術館での展示プランが頭の中を巡り始めました。どうぞご期待ください！

(TM)